

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 3月 28日

事業所名 タイムこどもデイサービスりずむ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		集団で体を動かして遊ぶときは、公園や公共施設を利用している
	2	職員の配置数は適切である	○			送迎時に手が足りない時がある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		玄関がバリアフリーになっていないが、室内は段差がない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			会議の中で行っているが、今年はコロナもあり思うようにいかなかった。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートをとったり、面談時にお聞きして保護者の意向に添うように話し合っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			3月末に法人HPIに、4月にデイ通信に掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	法人第三者委員会が行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			リモート研修や会議での研修を行っているが、コロナで思うように出来なかった。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			会議で話し合い計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			相談支援のものを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		りずむ会議の中で実施希望を出し合っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		プログラム以外にスタッフのアイデアを取り入れて実践している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		長期休暇の時は、イベントやデイ合同行事を出来るようにしているが、今年はコロナで出来なかった。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動が出来ているので、計画的に個別対応している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			職員間では出来ているが、スタッフにはボードでお知らせをしたり、直接伝えている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			送迎後、個別記録に記入し、内容によりスタッフと共に検証している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別記録日誌、業務日誌等に記録し、会議等で話し合っている
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			月2回のりずむ会議の中で話し合い、検証している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○		毎年4月ガイドラインの勉強会を行い、個別支援、プログラムに生かしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○	児童発達支援管理責任者が出席している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時の引き渡しの際に先生方と情報交換を行っている。学校からの通信などから保護者の方と連絡をとりあったり、状況により学校と直接連絡をとりあっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		看護師および管理者・児発管が医師の指示書に基づき連携を取り、実技研修も行っている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		管理者及び児発管が相談支援と連携している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	該当なし
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	公園などで、他の子どもと交流する時があるが、コロナの為、公共施設は今は利用していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	コロナで協議会が持たれなかった
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		6ヶ月毎の面談での支援計画作成時や、日常的には連絡帳、送迎時の報告等で状況を伝達している
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングの研修に参加して行っていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始時に行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○	相談支援だけでなく、デイサービスが直接相談を受けた時はその内容に沿って対応している。また、送迎時にもお話を伺っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナのため、今年度は保護者会ができなかった
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付担当の設置と、苦情があった場合はすぐに対応し、苦情内容を明文化して再発防止につなげている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		各デイサービス事業所の情報を「デイ通信」「タイム通信」にて発信している
	35	個人情報に十分注意している	○		会議で話し合い、十分配慮しているつもりである。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		会議で話し合い、全体で共有している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナで開催できなかった

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		策定しているが、保護者への周知徹底は課題である
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		(消防)避難訓練を年2回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会中心の研修、事業所会議での話し合いを行っている 今年度は、県の動画視聴、久喜市職員の研修、アンガーマネジメント研修を行った
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		面談時に説明し、同意書に署名してもらい、個別支援計画書に記載している
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		緊急カードの作成で、情報を把握している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		会議などで作成した内容を伝達している

～本年度の成果と反省点～

- \* コロナ禍で全体のイベントなど自粛されましたが、事業所内で季節の行事をすることができました
- \* スタッフや友達との関わりのなかで、一人ひとりの子ども達が心身ともに大きく成長しました
- \* 小学生から高校生までの異年齢集団のなかで、大きい子は小さい子の面倒をみたり、小さい子は大きい子の真似をしたりして、異年齢集団の良さが出てきました。

～来年度に向けて～

- \* これからも衛生管理に留意し、子ども達が安全で安心して過ごせるように努めていく
- \* 個別支援計画をもとに一人ひとりの個性を尊重し、発達過程を考慮して支援を行っていく